

No.76

令和6年  
3月

# 岡田まさあき 市政・県政報告

## 能登半島地震の警告

東日本大震災から、13回目の追悼・誓いの日を迎えました。元日の能登半島地震は、いつ大きな地震に直面してもおかしくない現実を突き付けました。被害を最小限に抑える備えと行動を改めて学び直す時です。



完全無所属・市民派  
市民の目線で行動します！

### 避難所の果たすべき機能

#### ■「水・食糧」と「社会サービス」を提供する

避難所は、被災者が生活の拠点を失ったとき、被災者がいのちを永らえる基盤である「衣食住を得るための場所」となります。また、健康で安全安心な生活を維持するための「社会サービスを得る場所」として期待されます。被災時には医療・保健・福祉サービスに代表される「社会サービス」へのニーズが爆発的に膨らむが、提供すべき主体の多くが、市民と同様に被災をすることで、提供拠点（病院・保健所・福祉施設など）にも被害が出ることで、提供機能が弱まります。その提供機能を補完する場所として避難所を活用することが必要となります。避難所には積極的に救護所を設け、医療関係者・保健師・介護保険従事者が活動できる拠点をつくるのが肝心です。つまり、避難所が「衣食住」「社会サービス」を得られる場として機能するために、いち早く必要物資を確保し、活動スペースを設け、社会サービス提供能力を持った専門職能者（医療従事者、保健師、介護保険サービス従事者など）や、さらに「物資提供や専門職能ボランティアの活動」を支援したり、被災者を直接的に支える一般ボランティアの受け入れを行うことです。

「水・食糧」と「社会サービス」を確保するためには、平時より「備蓄物資の管理」「庁内・市内の人的資源の把握」、災害時には、市外への「物資の調達・確保、人的資源の要請・確保」が必要となります。災害発生後、緊急期における人命救助と並行して、直ちにこれらの被災者の避難生活支援を始めなければなりません。発災後は、全体状況の把握が困難な中で、被害規模を見積もり、必要な支援の確保にいち早く着手する必要があります。

#### ■避難者の生活環境（特にトイレ）を整える!!

被災地での避難所などにおける生活が長期に及べば及ぶほど、市民のさまざまな健康への影響が懸念され、健康を守るための対策が重要となります。夏には「脱水症状」「食中毒」「熱中症」、冬には「感染症」の危険が高まります。避難所における衛生環境、特にトイレ環境の悪化がさまざまな健康問題を引き起こす。東日本大震災の教訓を受け、トイレについては整備すべきトイレ数の目安が示されています。

#### 「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン(内閣府)」

- ・災害発生当初は、避難者約50人当たり1基
- ・その後、避難が長期化する場合には、約20人当たり1基

避難が長期化する場合には、被災者の心身機能が低下することが懸念されます。寝床の改善、衣類の洗濯環境の整備、入浴の提供などに着手する必要があります。段ボールベッドの導入、洗濯場の確保、シャワーや風呂の確保などです。これらは決して「ぜいたく」なことではなく、健康を維持するために必要不可欠な環境整備です。また、被災者の状況に応じて、避難生活での発生が懸念されるエコノミークラス症候群、生活不活発病、心のケアへの対応にも取り組む必要があります。また、福祉避難所の充実や小中学校体育館のエアコン設置は急務です。

### なぜ古い木造住宅の耐震化が進まないのか!? 令和5年度大垣市の耐震改修工事の補助金上限110万円（年間5件）

わが国では、現在、住宅の耐震化率は毎年およそ1%ずつ向上しています。しかし、次の二つの理由から問題があります。

一つ目は、耐震化が進んでも、死者が減らないという事実です。数字の上での改善は、古い木造住宅に住む高齢者がお亡くなりになって、その住宅は価値がないので壊して更地にし、そこに新しく住宅やマンションなどを立てると、「見かけ上の耐震化率」が上がるからです。

二つ目は、毎年この数字が固定したままで改善しない状況の地方都市が多いという事実です。これには「勇氣ある決断」が必要です。住宅耐震化の遅れの原因は、対策の制度設計を間違っているからです。その筆頭理由は、住宅1棟を丸ごと耐震化しなければならないことです。耐震改修工事は、1棟丸ごと完璧に行う必要はありません。部分的な耐震改修工事にもっと補助金出すべきです。ベッドの周囲を頑丈なフレームで囲む防災ベッドの開発も進んでいます。耐震化のためには、一時的に重い家具を移動しなければならない。住民が高齢者の場合、それは不可能に近いと考えなければならない。

2018年大阪府北部地震で最も必要だったボランティアは、室内で移

動し転倒した家具の整理でした。家具は重くて大きく、高齢者には元に戻すことさえ無理なのです。従来の方法で耐震化をやろうとすると、家具の移動など高齢者にはどだい無理です。これが家全体となると絶望的です。仮に可能になった場合、工事中に一時的に家を離れてホテル暮らしをしなければなりません。これらの経費は自前です。また、耐震化の機会に、部屋のリフォームを兼ねるのは不可能です。これらの経費の要求に、そもそも現在の耐震化の制度がなじんでいないのです。今回の地震でも、2000年以降に建てられた比較的新しい建物は、ほとんど被害が出ていません。国や大垣市がもっと、耐震補強工事の費用やお一人暮らしの高齢者のための家具の移動費や耐震中のホテル代などの補助金を出すべきではないですか？そうすれば、耐震化の踏み切る人は増えるはずで、大垣市の耐震化の促進が急務です！

住宅耐震化率	割合
静岡市	93%
焼津市	94%
豊田市	95%
名古屋市	92%
津市	86%
大垣市	82%
岐阜市	81%
神戸町	約70%

(2018年)



### 赤鉛筆 ハチドリのひとしずく

『私と一緒にいろいろなことを一緒にして下さった皆さんへ。ありがとうございます。皆さんのお陰で私の人生はとても楽しく彩りのあるものになりました。南米の伝説のハチドリとまではいきませんが、色んなところでいろんな種を蒔きました。その種が小さな芽を出してくれたら、多分私のことだから、風に乗って飛んでいって、水をまいてくれるでしょう！ゆっくりしたらいいのに、どこにいてもお節介な私ですね。 そばちゃん』

この文章は私の高校の同級生である傍島潤子さんの最後のお別れのメールです。一昨年の9月に癌で還らぬ人となりました。彼女が連絡を取っていた人宛に、次男さんから届いたのです。すでに死を覚悟したメールでした。傍島さんは、大垣市環境市民会議を立ち上げ「ゴミコンポスト」政策の理論化と実践を行うエキスパートでした。また、子供たちに優れた演劇を見せようと「親子劇場」の活動を頑張っておられました。

お亡くなりになる3ヶ月前に「大垣市のゴミの有料化」について意見を求めたところ、癌が進行していたので、ガラガラ声でしたが、この問題について熱く語って頂きました。私はこのメールを頂いた後に、彼女のメールにあった南米の「クリキンディの伝説」という絵本を読みました。ハチドリのクリキンディは森が火事になったとき、水の雫を一滴ずつ運んで火の上に落としていきます。口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んで火の上に落としていきます。動物たちがそれを見て「そんなことをして いったい何になるんだ」といって笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」 出典：「ハチドリのひとしずく」 辻信一監修 光文社刊 2005年

傍島さんの功績は、クリキンディの最後の言葉とオーバーラップしました。多くの「ひとしずく」が集まれば、きっと良い未来に向かって動き出すと思います。

### 市政・町政の勉強会

ご参加ください  
あなたも地方議員になりませんか!?

日時/ 3/30(土) 10:00~12:00 (テーマ/大垣市の予算)  
講義・質問・ディスカッション etc.

場所/ オカサンホテル 1F 西事務所  
会費/ 500円 (飲み物・資料代)

◆市政・町政の財政 ◆子育て ◆福祉  
◆まちづくり ◆都市計画 など  
毎月テーマを変えて開催!

WIND いっしょに風を創ろう



## 岡田まさあき

〒503-0824 大垣市旭町1丁目5番地  
TEL71-8677 FAX 75-2455